

山崎 敬*：九州・四国におけるミツバツツジ類の新種と新変種

Takasi YAMAZAKI*：Some new taxa of *Rhododendron* sect.
Brachycalyx in Kyushu and Shikoku, Japan

ミツバツツジ類は中国大陸には 2 種類（最近 2 新種が報告されている）しかないが、日本列島は狭い地域にかかわらず多くの種類が報告されている。事実、地域ごとに色々な変異群が知られ、分類は非常に混乱している。しかし細かに調べると、いくつかの系統を異にする群が広がって、地域ごとにそれぞれ特徴的な性質を示し、中間形があって区別が困難なものはそう多くない。全体をまとめるのはまだ先のことであるが、ここでは新しい群だと思われるものを報告しておく。

地域ごとにそれぞれの植物群が特徴的な性質をもつといっても、その性質は花芽の特徴、若枝・葉柄・葉の裏面の初期と成熟期の毛のはえ方、雄しべの数、花柱の腺毛の有無、子房の毛の性質、果実の形や毛の性質といった色々な形質を総合したもので、色々な時期の標本を集めないと正確な分類ができないものでもあるので、分類が困難な群であることには変わりない。

九州のミツバツツジ類は著しく複雑であり、また資料不足のため手がつけられなかった。京都大学理学部植物生態研究室の高田研一氏は、5-6 年かけてミツバツツジ類の生態調査を行い、多くの資料を収集した。これによって、どうやら九州のこの類の種類や種内分化の様子が明らかになり、ミツバツツジ節全体の分類様式を考えることが可能になってきた。ここに記す分類群の多くは同氏が明らかにしたものであり、その資料を提供して下さった氏に深く感謝する次第である。同氏の調査の概要は、種生物学研究 5：19-32 (1981) と、大阪市立自然博物館の Nature study 27：7-11 (1981) に載せられている。

1) ヒュウガミツバツツジ *Rhododendron viscistylum* Nakai var. *hyugaense* Yamazaki

タカクマミツバツツジに似るが、葉は広卵形から卵状長楕円形で、中部のやや下の所が最も幅の広い傾向があり、若い時は全体に長毛があるが早く脱落して、果期には葉柄も葉の両面も殆んど無毛となる。果実は丸味の強い短円筒形で、長さ 5-9 mm、幅 4-5 mm である。タカクマミツバツツジでは葉の形はかなり変異の幅があるが、大体ひし形状広卵形から広卵形で、下部近くが最も幅が広がる傾向があり、果期にも裏面の主脈

* 東京大学 理学部附属植物園, Botanical Gardens, Faculty of Science, University of Tokyo, Hakusan 3-7-1, Bunkyo-ku, Tokyo 112.

の下部から葉柄にかけて長毛が残り、果実は短い円筒形で、下ぶくれしているだけであまり丸くなく、長さ 5-7 mm, 幅 3-4 mm である。

ヒュウガミツバツツジは宮崎県に多く、熊本県東部と鹿児島県北部でもみられ、標高 400-600 m の山地にはえ、それ以南のタカクマミツバツツジとは分布域を異にする。和名は高田研一氏 (1981) による。

2) **アマクサミツバツツジ** *Rhododendron viscistylum* Nakai var. *amakusaense* Takada

葉はひし形状広卵形から広卵形で、裏面の主脈下部から葉柄にかけて果期にも長毛が残っている点はタカクマミツバツツジに似るが、果期にも裏面全体に短毛が散生している。この性質はタカクマミツバツツジにもヒュウガミツバツツジにも見られない。果実は下部腹面がふくれた円筒形で、長さ 7-11 mm, 幅 2.5-3 mm であり、他より細長い。初島氏がネバリコバノミツバツツジとして、コバノミツバツツジの品種で発表したものがこれに当たるが、コバノミツバツツジとは関係なく、タカクマミツバツツジの一群として扱われるべきものとする。

3) **ウラジロミツバツツジ** *Rhododendron osuzuyamense* Yamazaki

宮崎県の尾鈴山からその西方の山地に分布し、初島氏がミツバツツジの変種として発表したものである。一見タカクマミツバツツジに似ているので、杉本順一氏はこれをタカクマミツバツツジの変種に移した。タカクマミツバツツジの花芽は灰白色の短毛が密生した卵状長楕円形であり、果実は下ぶくれした短い円筒形である。ウラジロミツバツツジの花芽は被針状長楕円形で赤味を帯び、無毛に近い。果実は弧状に曲った長めの円筒形である。ウラジロミツバツツジのこの性質は、これがタカクマミツバツツジよりミツバツツジに近縁であることを示している。

ミツバツツジ、トサノミツバツツジ、ハヤトミツバツツジなど、ミツバツツジの種類のもは 1 個の花芽に 2-4 個、まれに 1 個の花がつき、大体 3 個の花をだすのが原則である。葉は大きく、初めは毛があっても後に殆んど無毛となる。ウラジロミツバツツジは 1 個の花芽に 1 個の花がつき、葉は小さくて質が薄く、果期にも裏面の主脈から葉柄にかけて長毛が残り、また裏面全体に短毛が散生し、白色のろう物質があるなど、ミツバツツジやその変種などとはかなり異なる。独立の種類として認めてよいと考える。

尾鈴山やその西方の児湯郡の国見山などに見られ、初島氏によると西米良村の三方岳にもあるという。高田氏によると、尾鈴山ではウラジロミツバツツジは林内に生育し、同じ山で岩地に生育するヒュウガミツバツツジとはすみ分けが行われているという。高田氏は種名として変種名を種名に引上げた学名を用意されたが、先行名があって使えないので新名を与える。

4) **オオスミツバツツジ** *Rhododendron mayebarae* Nakai et Hara var. *ohsumiense* Yamazaki

ナンゴクミツバツツジはキョスミミツバツツジに類縁のある明らかな種類である。九州中部の山地に広く分布する。甬与志岳から稲尾岳に至る大隅半島の 700-900 m の山地上部には葉が小さく、裏面全体に長毛がいつまでも残っているものがある。ナンゴクミツバツツジでは葉に初めは毛があるが、7 月頃には裏面の主脈を除いて無毛となる。大隅半島に限られていて、北部の高隅山地には見られないようである。対岸の薩摩半島には普通のナンゴクミツバツツジが分布する。

5) ニシキコバノミツバツツジ *Rhododendron reticulatum* D. Don ex G. Don var. *parvifolium* Yamazaki

高知県高岡郡日高町錦山に生育する。葉が著しく小さい。蛇紋岩地域に生育するための特殊な形と見られる。靱山泰一氏によると、葉はやや黄色味を帯びているという。和名は高田研一氏 (1981) による。

6) キリシマミツバツツジ *Rhododendron nudipes* Nakai var. *kirishimense* Yamazaki

霧島山と鹿児島県高隅山の上部に分布する。果実が細長い円筒形である点はサイゴクミツバツツジと同じであるが、湾曲の度合いが低い。若枝は始めは軟毛があるが、6 月頃には落ちて無毛に見える。葉柄から葉身の裏面主脈下部にかけて長毛があり、果期にはかなり落ちるが、まばらに残っている。また葉の先は鈍いなど、ヒメミツバツツジよりずっとサイゴクミツバツツジから異なっている。

サイゴクミツバツツジは若枝から葉柄にかけて無毛である。ヒメミツバツツジは若枝は殆んど無毛であるが、葉柄から葉身裏面の主脈下部にかけて軟毛がある。ただ、葉柄の毛は早く落ちてしまうので、果期には無毛になる。トクシマミツバツツジとキリシマミツバツツジは若枝・葉柄・葉身裏面の主脈下部に軟毛がある。キリシマミツバツツジは若枝と葉柄の毛は果期には殆んど落ちる。トクシマミツバツツジは若枝の毛は早く落ちるが、葉柄には果期にもかなり毛がはえている。このように、若枝から葉にかけての毛のはえ方は地域ごとに異なる傾向が見られる。この性質は後述するユキグニ系のもてはさらに顕著である。和名は高田研一氏 (1981) による。

7) ツルギミツバツツジ *Rhododendron nudipes* Nakai subsp. *niphophilum* Yamazaki var. *tsurugisanense* Yamazaki

石立山から剣山、石槌山にかけての四国の中央山脈の高所に分布する。今までダイセンミツバとされていたが、若枝から葉柄・葉身裏面の主脈下部にかけて軟毛が密生する。ダイセンミツバツツジは若枝が無毛である。四国のものは葉の質がやや厚く、果実にはえる剛毛はより密でやや長い。これを変種としてツルギミツバツツジと名づける。

ツルギミツバツツジ、ダイセンミツバツツジ、ユキグニミツバツツジは近縁のものである。若枝が無毛で、その性質が葉柄にまで及んでいるのがユキグニミツバツツジ、若枝だけが無毛で葉柄に毛のあるものがダイセンミツバツツジ、若枝から葉柄まで全体に

毛のはえるものがツルギミツバツツジという関係にある。どうして北に行くほど毛が少くなるのかわからないが、九州のサイゴクミツバツツジの種内変異に見られたのと同じ現象がここにも見られる。

ユキグニミツバツツジとダイセンミツバツツジは非常に近いもので、従来考えられているように、ダイセンミツバツツジを中間にはさんで、九州と本州にサイゴクミツバツツジが分布するといったものではない。

ユキグニミツバツツジの西の限界は、瀬戸内側では岡山県東部の後山あたりにあり、日本海側では氷ノ山やもう少し西の鳥取県東部にある。ダイセンミツバツツジは那岐山あたりから西方で、山口県まで広がっている。しかし、両者の境界付近や隠岐島、小豆島などには、同一地域で葉柄が無毛のもの、有毛のもの、また葉柄の下半部は無毛で上半部は有毛のものなど、どちらに分類するか困難なものが見られる。ただ、石川県以北のユキグニミツバツツジや広島・鳥根県以西のダイセンミツバツツジは、それぞれ典型的な形をしているので、固定した地理的変異と見られる。

ダイセンミツバツツジは中国地方西部に分布の中心があるが、三重県・長野県西南部・山梨県にかけてまれにこの形のものが見出される。この地域は、近縁のトウゴクミツバツツジの分布域であって、ここにどうしてダイセンミツバツツジの形のものがあるのか、その理由はわからない。また四国の山地の高所にはツルギミツバツツジが分布するけれど、現地を見たかぎり今の所1株だけだが、剣山に若枝から葉柄にかけて無毛のものがある。東赤石山、西赤石山でも阿部近一氏は同じものを採集している。本州のユキグニミツバツツジより全体強壯であるが、ユキグニミツバツツジと考えられ、四国にもこれが分布することになる。東赤石山にもツルギミツバツツジが生育しているので、両者がどのように関連するのかが今後の問題である。

ユキグニ・ダイセン・ツルギミツバツツジが同一種内の地理的変異とすると、これらと九州・四国のサイゴク系との関係が問題となる。サイゴク系に属するサイゴク・ヒメ・クリシマミツバツツジでは、果実は下部から上部まであまり太さの変わらないゆがんだ円筒形である。ユキグニ系の3者では、果実は下部が太く上部が細くなる円筒形で、卵状長楕円形ともいえるような形である。この違いはユキグニ系とサイゴク系とを区別する大きな特徴である。それぞれ系統を異にする群ではあるが、果実の点以外で両者を区別する明瞭な特徴は見当たらない。両者を同一種内の地理的亜種とし、それぞれがさらに地域的な変種の分化を起していると考えたい。

トクシマミツバツツジはユキグニミツバツツジの亜種として発表したが、果実の形からはサイゴクミツバツツジの系列に入る。後者からは若枝や葉柄に果期にも毛が散生すること、果実が大きいことで区別される。阿部近一氏の採集された標本によると、最初に報告した木沢村と上那賀町の境の笹峠の他に、木沢村出羽、上勝町旭で採集されている。すべて蛇紋岩の岩地にはえているという。同じ木沢村でも、出羽とそう離れていな

い西三子山の杖立山の標高 1000 m ほどの所にある石灰岩地にはイヨノミツバツツジがあるので、トクシマミツバツツジは徳島県中部山地のごく狭い範囲に分布すると思われる。

徳島県のミツバツツジ類の多くの標本を提供して下さった阿部近一氏に深謝します。

1) **Rhododendron viscistylum** Nakai var. **hyugaense** Yamazaki, var. nov.

Rhododendron hyugaense Takada in *Shu-seibutsugaku-kenkyu* 5: 22 (1961), nom. nud.

Folia ovata vel ovato-elliptica, apice acuminata, utrinque primo longe pilosa, deinde glabra. Capsula globoso-cylindrica, 5-9 mm longa, 4-5 mm lata.

Nom. Jap. Hyuga-mitsuba-tsutsuzi.

Habit. Kyushu. Pref. Ohita: Minami-amabe-gun, Ume-mura, Fuzikawa zyo-ryu (S. Kurata, Aug. 16, 1962, no. 574, TOFO). Pref. Miyazaki: Nishi-usuki-gun, Dogatake (Y. Momiyama, Oct. 9, 1953, TI); Higashi-usuki-gun, Mukabakiyama (S. Endo, March 28, 1933, no. 111, TI); Koyu-gun, Osuzuyama, Kawano-kuchi (K. Takada, March 20, 1976, TI); Ibid. Matsuo-damu (T. Minamidani, March 30, 1978, TI); Koyu-gun, Nishimera, Shiono, 500 m (K. Takada, Sept. 11, 1978, no. 89101, Type; no. 89102, 89103, TI); Saito-shi, Ginkyogawa, Yokote, 380 m (K. Takada, Jun. 12, 1977, TI); Ibid. Kawanokuchi (K. Takada, March 22, 1976, TI); Ibid. Sangukyo (K. Takada, March 20, 1976, TI); Nishi-morokata-gun, Suki-mura, Nasa (K. Takada, Jul. 14, 1978, TI). Pref. Kumamoto: Ichibusayama (Y. Nabeshima, Aug. 1, 1930; G. Koidzumi, May, 13, 1933, TI); Hitoyoshi-shi, Nishimura (K. Mayebara, Apr. 3, 1918, TI); Kuma-gun, Ohhirayama (K. Mayebara, March 29, 1955, no. 5425, TI). Pref. Kagoshima: Isa-gun, Fuke, Tengu-iyayama, 650 m (Hatusima & Sako, Oct. 2, 1966, no. 30322, TI).

2) **Rhododendron viscistylum** Nakai var. **amakusaense** Takada in *Shu-seibutsugaku-kenkyu* 5: 22 (1981), nom. nud.

Rhododendron reticulatum D. Don ex G. Don f. *viscosum* Hatusima in *Sci. Rep. Yokosuka City Mus.* 15: 22 (1969).

Folia rhombeo-ovata, primo longe pilosa, deinde subtus sparse pubescentia. Capsula arcuate cylindrica, 7-11 mm longa, 2.5-3.5 mm lata.

Nom. Jap. Amakusa-mitsuba-tsutsuzi.

Habit. Kyushu. Pref. Kumamoto: Isls. Amakusa, Kamishima, Nokodake (K. Takada, Aug. 24, 1978. Type in TI); Ibid. (K. Takada, May 1977, TI).

3) **Rhododendron osuzuyamense** Yamazaki, nom. et sp. nov.

Rhododendron dilatatum Miq. var. *glaucum* Hatusima in Sci. Rep. Yokosuka City Mus. 15: 22 (1969).

Rhododendron viscistylum Nakai var. *glaucum* (Hatusima) Sugimoto, New Keys Woody Pl. Japan: 509 (1972).

Rhododendron glaucum (Hatusima) Takada in Shu-seibutsugaku-kenkyu 5: 22 (1981), nom. nud. ut *glaucum*, non G. Don 1834 et Hook. f. 1851.

Nom. Jap. Uraziro-mitsuba-tsutsuzi.

Habit. Kyushu. Pref. Miyazaki: Koyu-gun, Osuzuyama (I. Furusawa, May 25, 1949; T. Minamidani, Apr. 28, 1974, Aug. 12, 1974; K. Takada, March 21, 1978; F. Yamazaki, April 29, 1984. All TI); Koyu-gun, Minoh-mura, Kunimiyama (S. Kurata, Aug. 17, 1952, no. 999, 1000, TOFO).

4) ***Rhododendron mayebarae*** Nakai et Hara var. ***ohsumiense*** Yamazaki, var. nov.

Folia parva, 2-4 cm longa, 1.2-2.5 cm lata, subtus sparse hirsuta.

Nom. Jap. Ohsumi-mitsuba-tsutsuzi.

Habit. Kyushu. Pref. Kagoshima: Ohsumi, Hoyoshidake (Z. Tashiro, Aug. 6, 1928; Y. Momiyama, Oct. 4, 1958, TI); Aranishiyama, 800-900 m (K. Takada, Sept. 21, 1977. Type in TI); Nokubidake, 850 m (K. Takada, Sept. 21, 1976, TI); Inaodake, 800-950 m (Z. Tashiro, Jul. 29, 1928, TI; H. Noguchi, May 23, 1959, TOFO; K. Takada, Sept. 22, 1977, TI).

5) ***Rhododendron reticulatum*** D. Don ex G. Don var. ***parvifolium*** Yamazaki, var. nov.

Folia parva, chartacea, late rhombeo-ovata, in fructu utrinque glabra, sed ad costam basi hirsuta. Gemmae florum uniflorae. Capsula sparse hispida.

Nom. Jap. Nishiki-kobano-mitsuba-tsutsuzi.

Habit. Shikoku. Pref. Kohchi: Takaoka-gun, Hidaka-mura, Nishikiyama (H. Yoshinaga, Oct. 21, 1942, no. 24. Type in TI; *ibid.*, no. 31; S. Hattori, Aug. 9, 1926; Y. Momiyama, July 21, 1957; K. Takada, May 21, 1978. All TI).

6) ***Rhododendron nudipes*** Nakai var. ***kirishimense*** Yamazaki, var. nov.

Ramulus juvenis pubescens. Folia parva, 1.5-4.5 cm longa, 1.2-3 cm lata, apice obtusa. Capsula subrecto-cylindrica.

Nom. Jap. Kirishima-mitsuba-tsutsuzi.

Habit. Kyushu. Pref. Miyazaki: Kirishimayama, Sonoura, 1100m (T. Minamidani, Aug. 27, 1972. Type in TI); *ibid.*, Ohnamiike (Z. Tashiro, Apr. 18, 1920, TNS); *ibid.* Sinmoedake (leg. unknown, May 1972, TI); *ibid.* (K. Takada, Oct.

11, 1976, TI). Pref. Kagoshima: Ohsumi, Takakumayama (Z. Tashiro, May 1, 1920; K. Hasegawa, July 9, 1965; K. Takada, Sept. 23, 1976; Sept. 20, 1977; H. Idzumi et M. Togashi, Oct. 15, 1976; May 17, 1977. All TI).

7) **Rhododendron nudipes** Nakai subsp. **niphophilum** Yamazaki var. **tsurugisanense** Yamazaki, var. nov.

Ramulus juvenis et petiolus dense lanatus. Folia subchartacea, magna, in fructu subtus sparse pubescentia.

Nom. Jap. Tsurugi-mitsuba-tsutsuzi.

Habit. Shikoku. Pref. Tokushima: Mt. Tsurugisan, 1800 m (T. Yamazaki, Aug. 9, 1976, no. 1128. Type in TI); ibid. (C. Abe, June 8, 1947; G. Murata & T. Shimizu, May 26, 1956, no. 824, TI); Ishidateyama (T. Yamazaki, Aug. 12, 1976, no. 1051, TNS); Tenguzuka (Y. Momiyama, Jul. 29, 1957, TI). Pref. Ehime: Mt. Higashi-akaishiyama (Z. Tashiro, Aug. 29, 1927, TI); Mt. Ishizuchiyama (K. Okudaira, May 28, 1907, TOFO).

Rhododendron nudipes Nakai subsp. **nudipes** var. **tokushimense** (Yamazaki) Yamazaki, comb. nov.

Rhododendron nudipes Nakai subsp. *niphophilum* Yamazaki var. *tokushimense* Yamazaki in Journ. Jap. Bot. 56: 364 (1981).

Distr. Shikoku. Pref. Tokushima.

Nom. Jap. Tokushima-mitsuba-tsutsuzi.

Rhododendron nudipes Nakai subsp. **niphophilum** Yamazaki var. **lagopus** (Nakai) Yamazaki, comb. et stat. nov.

Rhododendron lagopus Nakai in Bot. Mag. Tokyo 40: 483 (1926); Trees & Shrubs ed. 2: 94, t. 42 (1927).

Rhododendron wadanum Makino var. *lagopus* (Nakai) Hara, Enum. Sperm. Jap. 1: 39 (1948), in syn.

Rhododendron reticulatum D. Don ex G. Don var. *lagopus* (Nakai) Hatusima in Sci. Rep. Yokosuka City Mus. 15: 22 (1969).

Distr. Honshu. Prefs. Yamaguchi, Shimane, Tottori, Hiroshima, Okayama, Kagawa, Mie, Nagano and Yamanashi.

Nom. Jap. Daisen-mitsuba-tsutsuzi.